

2026.3.4

総務 G

令和 7 年度 第 3 回 相模原弥栄高校 学校運営協議会 議事録

日時: 令和8年 3 月 3 日 14:30~16:30

場所: 相模原弥栄高校 CHAM ルーム

[出席者]

・学校運営協議委員(敬称略)

佐藤 和彦(相模原弥栄高等学校長) 三ツ堀 清志(昭和音楽大学)

八木 綾乃(地域有識者) 坂本 きよか(光が丘公民館)

上中 陽子(相模原市立弥栄小学校) 古谷 礼史(相模原市立弥栄中学校)

藤本 渉(PTA 会長)

・相模原弥栄高等学校職員

齊藤 史洋(副校長) 日永 博之(教頭) 坂本 朋子(事務長)

冠野 由紀子(管理グループ) 宮川 貴行(教務グループ) 菅野 光裕(生活グループ)

山本 堅二郎(進路グループ) 鶴田 明浩(SI グループ) 石川 輝(広報・連携グループ)

丸橋 健人(広報・連携グループ) 笹原 健太(総務グループ)

[欠席者]

遠藤 彰子(武蔵野美術大学) 伊原 伸一郎(東京純心大学) 高野 靖彦(同窓会長)

1. 開会および資料確認

齊藤副校長より開会の宣言がされた。総務グループ・笹原よりし、配付資料の確認が行われた。また、議事録作成のための録音および作成後のデータ削除について、委員の承認を得た。

2. 学校長挨拶:今年度の成果と課題

校長より、前日に挙行された第 6 回卒業式(340 名卒業)の報告とともに、今年度の重点施策について総括がなされた。

- **安全・安心な学校づくり:** 「かながわ・子どもサポートドック」が定着し、生徒の困りごとを早期に把握・支援する体制が整った。不登校生徒に対してもオンライン授業等で「学びの継続」を支援したが、支援しきれなかった事例もあり、継続的な課題としている。
- **教育課程の深化:** STEAM 教育と DX ハイスクールの取り組みにより、教科等横断的なコラボ授業が高度化。次年度からはこれらの活動を一括推進する「研究グループ」を新設する。
- **入試と魅力発信:** 私立高校無償化の影響や前年度の高倍率による敬遠から、今年度

は一部学科で志願者が減少したと考えられる。公立としての魅力と「選ばれる理由」を考えていく必要がある。

3. 各グループからの活動報告

- **事務室より:** ガラス交換工事の実施について報告した。
- **管理グループ:** ICT 環境(ロイロノート、Wi-Fi)の整備を継続。AR 技術を用いた先進的な防災訓練や DIG などを実施した。
- **教務グループ:** 授業評価アンケートにて「教科間のつながり」を実感する生徒が 73%(前回 72%)に達した。英語教育では英検 2 級以上の取得を目指す指導を強化している。大学入試に利用した生徒も一定数いることを報告した。
- **生活グループ:** 自転車事故が 24 件発生し、昨年度より増加。ヘルメット着用の啓発を強化中。教育相談では友人関係や精神的な悩みに関する個別支援を継続している。不登校生徒への支援なども継続して実施していく。
- **進路指導グループ:** 6 期生の進路状況(国公立・難関私大合格等)を報告。若手教員の指導力向上のため、模試分析ツール「コンパス」の研修会を実施した。研修については日程の調整により多くの職員への参加を促した。
- **SI グループ:** 文化祭について、実施時期が例年より遅かった影響か、来場者が 6,000 名を超え、過去最高を記録。しかし日程に関しては様々な懸念があるため次年度は1週早めて実施予定。部活動加入率は 86.3%と高く、専門学科と普通科の融合が成果を上げている。実績については別紙資料のとおりで、多くの部活動が成果を上げた。
- **広報連携グループ:** 入試競争率を報告。ホームページの改善や中学校との連携を強化し、志願者確保に努める。
- **総務グループ:** DX ハイスクール事業では、アプリケーションとそれらを使用する機器などを購入してきた。令和8年度はそれらを活用した場面を創出していく。また、情報Ⅱが開講されるためその点での効果も期待している。探究活動における外部コンテストの参加については目標としていた人数を大きく上回ったが、受賞などは難しい現状があった。卒業生とその保護者対象の魅力特色アンケートでは、設問によっては満足していないという回答が学科ごとにみられるものもあり、今後の課題として共有する。

質疑・意見

- ・ロイロノートはどのようなものか。
 - 双方向で利用できるノートアプリであり、生徒への資料送付や回答の一覧表示などが可能。
- ・一人一台端末は何を使用しているのか。
 - iPadの使用が多い。
- ・小中学校との連携は今後も進めていきたい。
- ・小学校でも休み時間の過ごし方として、電子書籍の閲覧をしている児童がいる。
- ・倍率の低下について、中学校の立場ではどのように考えられるか。
 - 現状では、生徒の希望を第一に捉えた進路指導が一般的であり、倍率を受けての志願変更は少なくなっているのではないか。
- ・「魅力特色アンケート」に基づいた具体的な課題提起
 - 美術科や音楽科において、総合的な探究の時間の満足度や進路・学習相談への評価が一部低い。専門性を深める中で、いかに幅広い学習やメンタルケアを届けるかが課題である。
- ・家庭との連携強化
 - 保護者から「学校の様子が分かりにくい」との声がある。4月より連絡ツール「すぐーる」を導入し、プリントのデジタル化と迅速な情報提供を徹底する。
- ・公民館での美術作品展示が利用者に非常に好評であり、感謝している。

4. 外部委員からの提言および意見交換

地域・PTA・近隣校の視点から多角的な議論が行われた。

- **部活動の指導と環境:** 「生徒のポテンシャルに頼るだけでなく、いかに指導者が叩き上げて高めへ連れて行けるか」という質の追求が求められた。また、私立との環境格差を埋めるため、クラウドファンディングや寄附金活用の可能性について検討が必要との意見が出た。
- **ICTとAI教育:** 生徒の95%が生成AIを利用している実情に対し、単なる禁止ではなく「正しく使いこなす力」を養うべきとの指摘があった。同時に、デジタル化の中で「書くこと(アナログ)」の良さをどう残すかも議論された。
- **地域連携の成果:** 小学校での陸上競技部による指導が非常に好評であった。小中学校との連携であいさつ運動や豪姉妹校交流なども継続していく方針である。総じて地域全体として本校生徒の活躍を期待している現状が報告された。

5. その他・閉会

来月以降の行事予定(入学式、各部活動の定期演奏会等)を案内。校長より、次年度も引き続き委員として協力いただきたい旨の要望があった。